

計画 11 地域生活を支える駅周辺のまちづくり

< 5 年後の目標 >

地域の中心的な役割を果たす駅周辺地区の整備
(交通広場や駅へのアクセス道路、生活利便性の高い駅前空間、景観等の整備促進)

5 か年の取組

1 石神井公園駅周辺地区

- (1) 南口西地区市街地再開発事業施行への支援や補助232号線(南口駅前広場～富士街道)の整備を推進します。
- (2) 駅と石神井公園を結ぶ駅南側補助132号線の緑化を図るとともに、沿道では用途地域の変更や色彩、意匠などの景観計画を含む地区整備計画の決定を行います。
- (3) 安全で快適な歩行空間を確保するため、都市計画道路などの整備にあわせて、無電柱化やバス経路、歩行者優先路線などの交通動線を見直します。

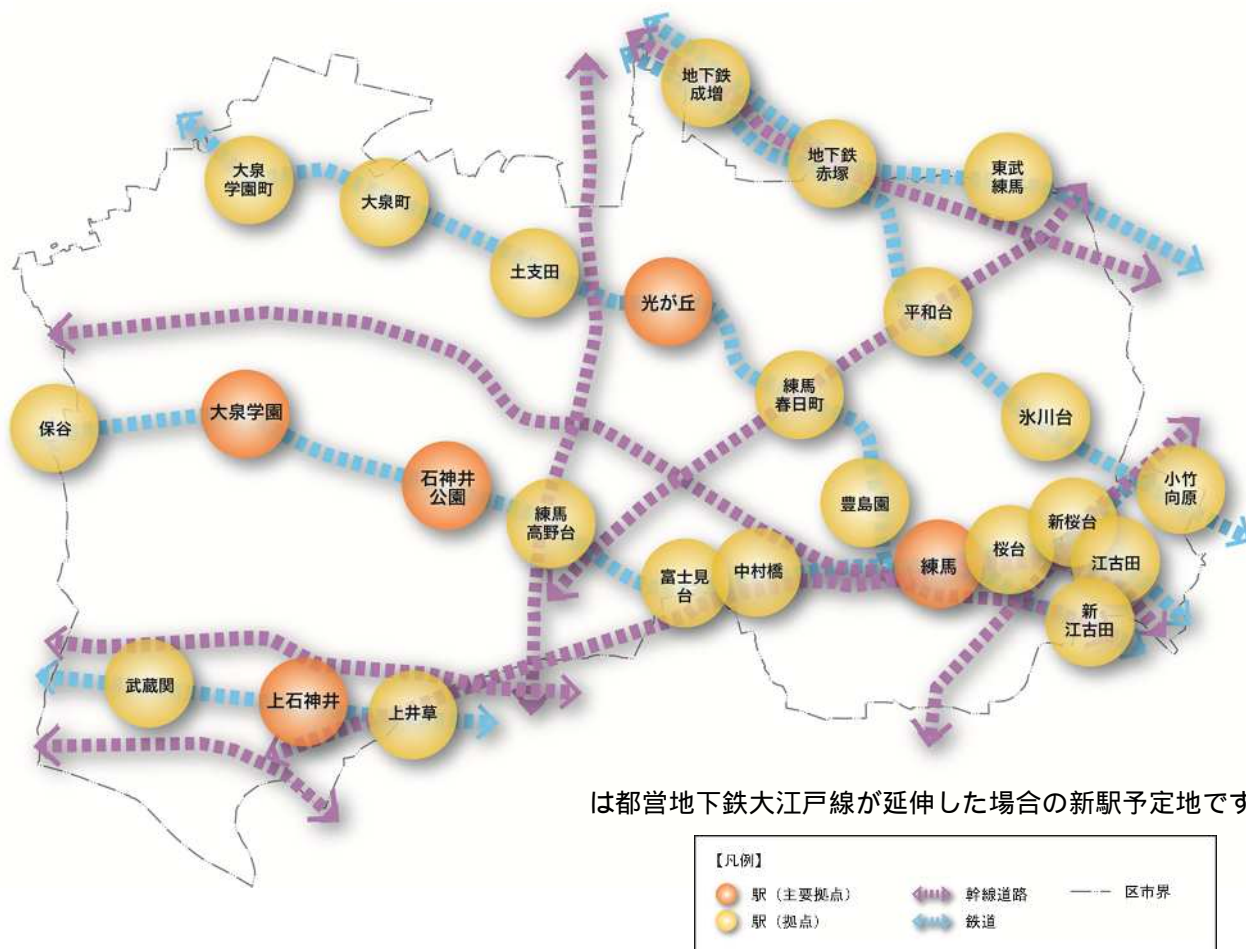
2 上石神井駅周辺地区

- (1) 西武新宿線と交差する外環の2は、鉄道の立体化を前提に都市計画変更が決定されました。上石神井駅周辺では、これを受けて交通広場の整備計画を策定し、整備に着手します。
- (2) 外環の2の沿道については、都と連携して道路と沿道の商店街や住宅を一体とした整備の事業手法の検討や合意形成を行い、まちづくりを進めます。

3 その他の駅周辺地区

- (1) 西武新宿線の武蔵関駅では、広場など交通結節機能の整備計画を関係機関と連携し策定します。また、上井草駅周辺地区では杉並区と連携し駅周辺のまちづくりを進めます。
- (2) 保谷駅周辺地区では、まちづくりの検討組織による協議を進め、地域の課題の把握、重点地区まちづくり計画の策定などを行います。
- (3) 江古田・東武練馬・富士見台の各駅周辺地区では、密集住宅市街地整備促進事業の施行と連携し、防災対策に加え、地域の特性に応じた交通結節機能の向上を図ります。

練馬区内および隣接の各駅



駅は、都心などへ向かう多くの通勤者、通学者に利用され、駅周辺は日常生活を支える拠点になっています。拠点には、便利で賑わいのある商業環境など、生活・文化の中心としての機能のほか、交通広場やアクセス道路を備えた、交通拠点機能の向上が必要です。

交通拠点機能を高めるためには、交通広場やアクセス道路をはじめとして、以下の機能を駅の特성에合わせて備える必要があります。

交通結節機能

交通広場やアクセス道路による、他の交通機関への乗り換えサービス

生活利便機能

生活を支える賑わいのある商業環境、地域住民等の交流の場を備えた駅前空間や憩いの場の提供、各種の情報や公共的なサービス

都市景観機能

地域の顔にふさわしい美しさとシンボル性を兼ね備えたまち並み

現在、区内および隣接の23駅のうち交通広場が整備されている駅は、練馬駅、光が丘駅、練馬高野台駅、石神井公園駅、大泉学園駅、保谷駅、成増駅の7駅です。